

2. 原爆・湯川

広島原爆ドーム。資料館は高校の修学旅行で行きました。壁(コクリート?)に突きさされたガラスの破片、階段に残された人の影を実際に見ました。本当に悲倫ぞ本当に現実におきたことなのかと思、てしまいました。

私は小学5年生の時、インターネットで広島へ原爆について勉強したいけりがあり、安からという理由で友達と興味本位で行きました。資料館に行、て当時の写真を、その場の残、てい石物等たくさん見てきました。やけに古い三輪車、がとて印象に残っています。老人ホームにも行、て当時の話も聞きました。思い返すと心はく教があがります。

核兵器などのおと、今日の地球上の科学、技術では、必要以上に莫大のエネルギーを持つ兵器を容易に作り出しが出来るため、争いと一ト言、ても、危険な方、くはらん、でくる部分は大きいと思う。

湯川秀樹さんの講義に、つときました。湯川さんの講義を今の全世界の人達にも見てもらいたい。聞いてもらいたいと思、りました。

被曝した方の写真がとて印象に残りました。皆が使う電、のたに特定の人のだけ、被害を受けなければいけないのはとて不公平だし、とらなるのなら原子力発電を利用しないべきだと思、りました。私は西日本出身なので地震の影響もほとんどなく、正直原爆事故のことあまり深く考、ていませんでした。が、授業をきいていてもっと関、心を持つべきだと思、りました。物理の授業からこんな社会的なこと、にまで結び付いて驚、きました。私は今まで1度も広島や長崎に行、たことがないの、是非長期休暇に、行こうと思、りました。

被爆園、からこここの核のおとしを伝えていか、たいとい、けないし、それを伝えていくのは私たち若い世代、の、び、"めんど、く、さい"や"ア、ロ、ク、だ、く、ない"という理由で勉強しないとい、うのは無責任な、こと、だ、と、改めて思、います。

与まじ歴史も勉強して思、ったことは、過去に、興味ないで、いた。それが全くの間違い、だ、と、私は高校時に、行、った長崎の原爆地で、気付、きました。

私は広島原爆資料館や原爆ドームに行、たこと、があるが、資料館にある悲惨な資料は、その時の私、は、ただ"苦、み"という気持ち、だけで、ひと、つ、も資料を見、るに資料館を、ホ、イ、に、ま、つ、いた。しか、し、今日の講、義を、通、して、人間、が、つ、く、た、もの、の、責任、は、人間、が、と、ら、な、け、れ、ば、な、ら、な、い、とい、う、こ、と、を、考、え、わ、か、ら、な、い、が、ら、や、ら、な、い、の、で、は、な、く、それ以前に私、たちにはそれを勉強する義務、がある、と思、った。

修学旅行で原爆資料館に行、た、こ、と、が、あ、り、ま、す。教科書では載、って、い、ない、す、さ、ま、じ、い、写、真、ほ、ど、を、見、て、ショックを受けました。

軍械の発射や、被爆の映像を、み、て、改めて、す、ま、じ、い、もの、だ、とい、う、こ、と、を、実、感、した。核や原爆の被害は、日本でも、あ、る、の、に、私、は、た、か、な、か、身、近、に、感、じ、る、こ、と、が、で、き、な、か、た、の、だ、が、私、が、こ、う、い、た、被害や現状について、知、ら、な、い、こ、と、は、多、く、だ、と、思、った。

核兵器の、あ、り、し、て、ま、す、学、校、教、育、で、ま、と、と、取、り、入、れ、て、い、く、こ、と、は、な、い、か、と、思、い、ま、す。核兵器での事件は決して、あ、ら、な、い、の、で、一、度、と、も、な、ら、な、い、歴、史、的、な、事、件、で、あ、る、危、険、性、被害、など、学、校、家、庭、など、で、教、育、が、ま、と、と、取、り、入、れ、て、考、え、ま、さ、さ、れ、ま、す。

これに、し、て、も、広島、の、映、像、を、見、て、か、つ、多、く、の、科、学、者、が、暑、名、した、の、は、意、外、で、した。本当に何も知らず、に兵器の開発を、し、て、い、る、の、で、あ、る。

今日観た湯川秀樹さんの映像はとて衝撃的なものでした。自分たちが何を学、んでいるのか、という、よ、う、な、部分、に、つ、な、る、もの、は、も、っ、と、早、く、知、り、た、か、つ、た、で、す。

他のコメントにもあつたように、教育を考、える必要は、あ、る、と、思、い、ま、す。幼いうちから人間の行、つ、て、き、た、残、虐、な、行、為、を、見、せ、る、必要、は、な、い、で、し、よ、う。でも、それを知らないまま、社会に、出、て、有、権、者、と、な、り、判断する、の、は、問、題、で、す。

皆さんの場合、既に義務教育は、終、わ、つ、て、い、ま、す。自分で講義を、と、る、と、か、本を、読、む、と、か、学、ぶ、う、と、し、な、け、れ、ば、も、う、誰、も、教、え、て、く、れ、ま、せ、ん。

3. iPS

iPS細胞も開発し、ノーベル賞を取った時、何人、何人にとて、良、これが開発されたと思、いました。何も知らないで種柄いては、と、おぼろげに思、いました。

国の方針を決めるのは、民主主義国家においては 間接的にしても国民自身なので、国民一人ひとりの 影響力の大きさが少しわかった気がしました。
山中教授のコメントは、「皆さんの知恵が欲しい」あるいは、「助けてほしい」ということだと、私は理解しました。自分たちだけの手にはおえないので、皆さんで決めてほしいということだと思いました。

4. 福島・その他

私は、小さい頃 父に「もし、日本が戦争するとしたら 福島がこうげきさか、やすんだ?」といわれたのを覚えている。その時は理解するどころか、きつから、たが、2011年に地震による気は誰か思わなかったことだ。地震によって原発・核の怖さ、学んだわけだが、その怖さを知らなかった時、既に知っている福島の人々のうたえを人ごこのようにしていたのは 事実である。私は福島出身で、周りの環境はもちろ、私ののと、半も、は人のうたえで、はた、こともあり、私は、少し知識の中、でも、原発についてはとても、くやしい思いがある。だから、湯川さんを始め、いろん、科学者のうたえと、努力を、きちんと 理解すべきである。勉強、強、い、は、い、で、行、動、す、る、の、は、危、険、あ、る、と、い、う、言、葉、を、は、じ、め、て、実、感、し、た。今回の授業は私にとて複雑な気持ちだったが、他人が、理解、できる、よい、機会、だった、ので、よい、で、い、う、か?

ここに書かれた悔しさの全てを理解できるだけの想像力を持ちたい! 4年生で、卒業後、福島に住んで福島の人々と共に情報を発信しようとしている学生もいます。私たちは、色々な努力をしながら理解する必要があるのではないのでしょうか。想像力が足り、よく耳にするのはチェルノブイリの子供たちの首に鎖の首輪のようなものがある事。ないと、他国で放射線の影響で子供は甲状腺? がんになりやすく、当時の医療技術の問題、の、こ、と、を、自、分、の、こ、と、と、思、え、な、い、な、の、か、何、な、の、か、は、知、ら、な、い、け、れ、ど、手、術、の、あ、と、で、鎖、の、よ、う、な、傷、あ、と、が、人の細胞を破壊し、あんな悲惨なことになる、と、い、う、も、の、を、人、が、簡、単、に、作、れ、る、も、の、だ、と、い、う、こ、と、を、れ、が、10、月、年、ス、テ、ル、に、自、分、の、持、来、に、も、影、響、が、出、る、こ、と、に、恐、怖、を、感、じ、ま、し、た。私は人間が、絶滅すれば良いけど、は、思、い、ま、せ、ん、が、この地球に生きる生物を人間が開発したもので一瞬で、壊、し、て、し、ま、う、こ、と、が、あ、る、こ、と、が、悲、し、い、で、す。しかもそれが戦争や、ど、ち、の、国、が、強、い、よ、う、に、い、つ、て、人、間、の、身、を、こ、の、悲、惨、な、出来、事、が、あ、ら、う、こ、と、が、恐、ろ、い、で、す。

iPS細胞、核、か、ど、人、に、と、つ、て、あ、り、あ、る、か、だ、と、感、じ、た、
「知、り、ま、す、と、い、う、こ、と、で、自、分、が、社、会、や、世、界、に、変、え、を、も、た、す、よ、う、に、知、り、ま、す、か、い、け、れ、ど、い、け、な、い、で、思、っ、た。

iPS細胞のことで、ニュースで見、化学の進歩は、あ、こ、い、い、な、し、が、思、わ、な、か、た。今日の講義を聞いて、私は本当に知識、が、少、な、い、の、か、と、思、っ、た。

このようなことは口外するのはよくないかもしれませんが、私の父は原子力発電に大きく関わ、た、仕事、を、し、て、い、ま、す。今、ま、給、料、も、前、より、半、分、に、な、り、今、現、在、生、活、に、苦、し、み、を、始、め、て、い、ま、す。正直、自分が大学に通わせていただ、い、て、い、る、こ、と、が、そ、れ、に、ま、た、負、荷、を、か、け、て、い、る、と、考、え、る、と、心、が、痛、ま、す。先生のおっしゃ、て、い、た、原、子、力、を、使、う、こ、と、を、認、め、た、の、は、誰、か、と、考、え、る、と、一、番、不、満、を、言、て、い、る、国民、で、す。そのせいで、困、っ、て、い、る、人、や、今、の、状、況、で、困、り、始、め、て、い、る、人、など、本、当、に、理、不、尽、で、誰、か、が、損、ず、れ、ば、損、ず、れ、る、人、も、い、ま、す。どう、す、れ、ば、誰、も、が、納、得、す、る、日、本、が、作、れ、る、の、か、し、ょう、か。考、え、な、け、れ、ば、な、ら、な、い、大、事、な、疑、題、だ、と、考、え、ま、す。核、は、ま、だ、い、つ、て、人、類、に、地、球、に、大、き、い、影、響、を、与、え、る、の、か、今、日、の、こ、こ、で、痛、感、を、感、じ、ま、し、た。

日本では東京電力は叩かれまくります。しかし、海外では、最悪の事故を防ぐために、現場で頑張った人々を Fukushima 50 と呼んで賞賛しました。現場で頑張る人の努力には、私も心から感謝したいです。

東京電力に残念な部分があったのは間違いありません。しかし、国策として進めた原発を支持してきたのは、紛れもない、私たち国民です。「誰かを悪者にする事で自分が安心したい」というのは普遍的な人間の傾向です。国民である私たち自身の責任のとり方を、私たちは考える必要があると思います。

そもそも、人が生きていく為、に、作、り、上、げ、て、ま、し、た、物、が、結果、的、に、人、を、死、に、も、た、ら、し、作、り、上、げ、て、ま、し、た、私、達、が、コ、ン、ト、ロ、ール、で、き、な、く、な、り、苦、し、む、の、あ、ら、は、い、け、な、い、サ、イ、ク、ル、だ、と、思、っ、ま、し、た。結局は人間が一番怖い。その通り。せ、ん、中、で、一、番、恐、ろ、い、の、は、人、で、す、ね。高、子、爆、弾、は、ど、う、し、て、発、明、さ、れ、た、の、か。

こ、れ、が、私、達、は、技、術、は、進、歩、す、て、い、く、の、よ、う、に、な、る、の、か、それ、も、こ、の、ま、で、あ、る、べ、き、な、の、と、し、ょう、か。技術を用いて人を傷つけるのか、それとも、私たちの人生を豊かにするのか。それは私たち次第です。私たちが学ばなければ道を誤るのは確実です。

無、知、は、知、り、ま、す、に、自、覚、症、候、が、な、い、恐、ろ、い、も、の、だ、と、思、い、ま、し、た。 ←この言葉いただきます!